

委託事業実施内容報告書
平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

内容報告書

団体名：公益社団法人 国際日本語普及協会

1. 事業の概要

事業名称	難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者を主たる対象にする日本語支援及び難民への日本語教育への理解促進事業
事業の目的	難民問題が世界的な課題となる今日、日本にとっても難民を今後どう受け入れるかは避けて通れない課題である。難民が日本社会で自立し安全で健康的な暮らしを成立していくために、日本語支援がどうあるべきかという問題はまだまだ社会で十分に議論され共有されていない。AJALTの日本語講師はインドシナ難民受け入れの時代から今日まで約35年にわたって難民事業本部の運営の下、難民への日本語教育を実践してきた。難民への日本語教育は今日、地域で求められている「生活者としての外国人」のための日本語教育そのものといえるが、加えて実践にあたっては難民という特殊性に対する理解も必要である。また、多くの地域の教室がそうであるように、多文化、多言語、レベル差などに対応した教室運営が求められる。本事業では「難民への日本語教育・支援」について、その基本的な考え方、方法、教材等について、支援者の理解の輪を広げることを第一の目的とするともに、学習機会と場を切望する多くの難民とその家族、人道的配慮により在留を認められた人々に向けた日本語教室を昨年に引き続き実施する。この日本語教室をモデル教室として運営し、実践の場に支援者が参加する機会を提供する。モデル教室が学習者、支援者双方にとって良い学びと交流の場となり、結果として①学習者にとっては日本語力の向上、社会参加の促進、②支援者にとっては難民への日本語教育への理解促進、自らの実践に向けた動機づけとなることを目指す。
日本語教育活動に関する地域の 実情・課題	定住難民に対しては、国の難民施策として572時間(1時間=45分)の初期集中日本語教育の機会が保障されてきた。しかし、諸事情により全ての難民が定住支援施設での学習機会に浴しているわけではなく、学習機会を切望する難民およびその家族は多い。そのうえ、難民認定には至らず、人道的配慮により在留を認められた人はこの学習機会を得ることもできない。また国の初期集中研修を終えた人の中でも、継続学習を必要とし希望する人も多い。難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた人々に対して、日本語学習の機会は、当事者の立場から見るとまだ十分であるとはいえない現状がある。他方、定住難民(インドシナ難民、条約難民および第三国定住難民)の存在は日本人の間で十分に認知されているとはいえず、まして難民への日本語教育の必要性と内容については日本語教育関係者の中にあっても理解されているとはいえない。また、地域日本語教育に関しては多くがボランティアに任されている現状があるが、学習者が集まらない、ニーズ・国籍・年齢・日本語力等、学習者の多様性に対応することの難しさに悩む支援者の声も多く聞く。また難民を前にしてどう教えたらいかが戸惑う支援者もいる。私達が提案する難民という背景をもった人々に対する日本語教育は、相互尊重に基づいた「互いに学び合う」関係性を促進する。難民への日本語教育への理解を進めることは、難民はもとより地域在住の外国人を地域の仲間として暖かく受け入れる風土を生む契機ともなるだろう。まずは難民についての理解を深め、難民をはじめ、「生活者としての外国人」が暖かく日本社会に受け入れられる空気を醸成するような日本語教室を各地域で増やしていくこと、そのために貢献する人材を増やしていくことが課題と考える。
事業内容の概要	①難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた人を主たる対象にする日本語教室の開催 前年度実施した日本語教室を継続実施する。この教室に通うために仕事や仕事のシフトを変える学習者が出るなど、参加者の日本語学習へのニーズはたいへん強く、定着率も高い。また学習者が新しい学習者を呼ぶなど口コミで学習者数が増えている。この教室を「難民を中心とした生活者としての外国人のためのモデル教室」として実施、運営する。 ②難民に対する日本語教育への理解を促進するための支援者研修の実施 「難民への日本語教育」について、その基本的な考え方、留意点、レベル差への対応、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容と教え方のヒント、教材作成の方法等について、支援者研修を行う。日本語教育のノウハウを提供するだけでなく、この実践を通して、日本が難民を受け入れることの意味、難民と共に生きることの意味を参加者と共に考えていけるような未来志向の支援者研修とする。各地で難民への日本語教育を実施する人に参加を呼び掛ける。①の教室の授業を支援者が見学したり参加できるように工夫する。
事業の実施期間	平成28年4月～平成29年3月(12か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	伊藤 寛了	公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部
2	石上 和敬	浄土真宗本願寺派光明寺/武蔵野大学
3	岩瀬香奈子	株式会社アルーシヤ
4	小門 謙	一般財団法人 港区国際交流協会
5	清野成美	港区 国際化・文化芸術担当課
6	関口 明子	公益社団法人 国際日本語普及協会
7	内藤真知子(～5月)	公益社団法人 国際日本語普及協会
8	小瀧雅子(6月～)	公益社団法人 国際日本語普及協会
9	新野佳子	公益社団法人 国際日本語普及協会
10	樋口 博	公益社団法人 国際日本語普及協会



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成28年4月11日(月) 18:30-21:00	2時間30分	公益社団法人 国際日本語普及協会	伊藤寛了, 石上和敬, 岩瀬香奈子, 小門謙, 清野成美, 高木隆子(陪席), 関口明子, 戸田佐和(陪席), 内藤真知子, 新野佳子, 樋口博	1. 取組1「日本語支援事業」、実施内容の検討 2. 取組1「日本語支援事業」参加者募集につき検討
2	平成28年9月9日(金) 18:00-20:30	2時間30分	公益社団法人 国際日本語普及協会	伊藤寛了, 石上和敬, 岩瀬香奈子, 小門謙, 清野成美, 高木隆子(陪席), 関口明子, 戸田佐和(陪席), 小瀧雅子, 新野佳子, 樋口博	1. 取組1「日本語支援事業」、取組2「支援者研修事業」実施内容の検討 2. 取組2「支援者研修事業」参加者募集につき検討
3	平成29年3月16日(木) 18:30-21:00	2時間30分	公益社団法人 国際日本語普及協会	伊藤寛了, 石上和敬, 岩瀬香奈子, 小門謙, 関口明子, 戸田佐和(陪席), 小瀧雅子, 新野佳子, 樋口博, 小形真佐子(陪席)	1. 今年度実施事業につき検証 2. 来年度以降実施事業につき検討

(2) 事業の実施体制

下記中核メンバーが中心となって事業を推進した。

事業責任者:内藤真知子(～5月)小瀧雅子(6月～)、取組1実施責任者:樋口博、取組2実施責任者:新野佳子

事業責任者は、公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部および難民コミュニティ等の協力を仰ぎ、「日本語学習支援事業」の広報活動を行い参加者を募った。また、港区役所、港区国際交流協会や難民支援関係諸機関等の協力を仰ぎながら、都内および近郊のボランティア団体に「支援者研修事業」への参加を呼び掛けた。

取組1、2実施責任者は、事業責任者と協力しながら「日本語学習支援事業」および「支援者研修事業」を中心となって実施した。両事業実施に当たっては、運営委員会の場において参加者の募集、両事業の運営、日本語支援のあり方等について協議、両研修事業の担当講師を加えた会議等の場においても検討を加えつつ事業を推進した。本事業実施後には、両事業担当講師との会議、運営委員会の場で成果、課題を検証、今後の事業展開につき協議した。

(3) 地域における連携体制

下記機関、団体から主に以下の協力、連携を得て本年度事業を実施した。

1.港区国際交流協会(運営委員):本事業の企画・運営及び広報、参加者募集

2.港区役所(運営委員):本事業の企画・運営及び広報

3.公益財団法人 アジア福祉教育財団 難民事業本部(運営委員・在港区南麻布):本事業の企画・運営、参加者募集

4.浄土真宗本願寺派 光明寺(運営委員・在港区虎ノ門):本事業の企画・運営、日本語教室等の講座開催会場

5.株式会社アルーシャ(運営委員・在港区虎ノ門):本事業の企画・運営及び広報

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称: 難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者を主たる対象にする日本語支援事業】									
目的・目標	地域在住の定住者と多文化共生社会の実現へ向けて共に進んでいくために、定住者が日本の文化や社会に関する知識を深めながら、日本の生活に必要な行為を日本語を使ってできるようにすることを目的とする。								
対象	難民及び主に主に港区在住の定住者								
取組の内容	<p>定住者の生活の質向上、日本文化や社会に関する理解促進に結びつく日本語教室を平成25、26、27年度に引き続き実施した。</p> <p>平成28年度は、平成27年度および26年度からの継続学習者に加え、新たな学習者を募って開催、新規学習者の中には日本語力の低い学習者の参加もいたことから、「入門」と「初級(実際には初・中級)」のレベル別2クラス編成で実施した。</p> <p>クラスでは、学習者の希望も取り入れながら、生活の各場面で必要となる日本語および背景知識についての学習を中心に進めた。併せて、四季折々の行事、日本の伝統文化や日本社会についての理解を深めるためのニュース等を題材とした学習を適宜取り入れた。</p> <p>上記の学習を中心に、学習者のコミュニケーション能力向上に焦点を当て、かな・漢字学習や文章の読み書き能力をつけるための練習、ことばを五感で味わい、また発話をスムーズにする効果もあるプロソディ、動詞の活用形を自然と習得できる口慣らし練習等の活動等も取り入れつつ進めた。</p>								
実施期間	平成28年5月12日～平成29年3月9日			曜日・時間帯			木曜日(18:30～20:30)		
開催回数	全 80 時間 (1回2時間 × 40回)			開催場所			浄土真宗本願寺派光明寺		
参加者	総数 35 人 (日本語学習者 21 人、指導者・支援者など 14 人)			使用した教材・リソース			カリキュラム案、ガイドブック、教材例集、にほんごえてん、はじめましてにほん、レベル別日本語多読ライブラリー、本事業での既存作成教材等		
出身・国別内訳(人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	2			6					
ミャンマー(12 人)、シンガポール(1人)									
カリキュラム案活用	14回8月18日、15回8月25日、16回9月1日の3回にわたって、病気・病院をテーマに学習した。病気の症状、診療科、病院での診察、薬の種類、飲み方などについて、ロールプレイ等を交えて学習した。17回9月8日、18回9月15日は災害をテーマに、地震、火事、台風など主な災害について知るとともにその対処法を学習した。標準的カリキュラム案P.12「生活上の行為の事例」から「1健康・安全に暮らす01健康を保つ、02安全を守る」また教材例集P.7～P.31「01健康を保つ」を参考にした。そのほか、7月7日、11月10日の戸外学習では、行動体験学習として、目的地までの道を尋ねるタスクを行った。(参考:カリキュラム案P.102、ガイドブックP.38)								
日本語教育の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名	
1	平成28年5月12日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	9	仲良くなる①(入門/初級) 自己紹介①(入門/初級) 漢字(初級)、かな(入門)	お互いの名前を覚える・自己紹介 プロソディ「ことば・ことば・ことば」 グループ毎に読み書き練習	松井治子 大上幸二	宮下しのぶ 小形真佐子	
2	平成28年5月19日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	10	自己紹介②(入門/初級) 漢字(初級)、かな(入門)	グループ毎に自己紹介の内容発展 プロソディ「ことば・ことば・ことば」 グループ毎に読み書き練習	宮下しのぶ 小形真佐子	新野佳子 大上幸二	
3	平成28年5月26日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	8	一日の生活①(入門/初級) 漢字(初級)、かな(入門)	グループ毎に一日の生活の中の語彙、表現 学習 プロソディ「ことば・ことば・ことば」 グループ毎に読み書き練習	新野佳子 小瀧雅子	樋口博 井上紀代	
4	平成28年6月2日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	7	一日の生活②(入門/初級) 身近なニュースと漢字(初級) 漢字/かなと語彙(入門)	グループ毎に一日の生活の中の語彙、表現 学習 プロソディ「ことば・ことば・ことば」 ニュース理解・会話、漢字学習(初級) 漢字/かな・語彙読み書き練習(入門)	樋口博 井上紀代	松井治子 小瀧雅子	
5	平成28年6月9日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	職場での一日(入門/初級) 身近なニュースと漢字(初級) 漢字/かなと語彙(入門)	グループ毎に職場の一日の語彙、表現学習 プロソディ「ちよつとまって」 ニュース理解・会話、漢字学習(初級) 漢字/かな・語彙読み書き練習(入門)	小形真佐子 松井治子	大上幸二 宮下しのぶ	
6	平成28年6月16日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	8	交通・経路①(入門/初級) 身近なニュースと漢字(初級) 漢字/かなと語彙(入門)	グループ毎に通勤、通学経路の語彙、表現 学習 プロソディ「ちよつとまって」 ニュース理解・会話、漢字学習(初級) 漢字/かな・語彙読み書き練習(入門)	大上幸二 宮下しのぶ	井上紀代 松井治子	
7	平成28年6月23日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	8	交通・経路②(入門/初級) 身近なニュースと会話(初級) 漢字/かなと語彙(入門)	グループ毎に通勤、通学経路の語彙、表現 学習 プロソディ「ちよつとまって」 ニュース理解・会話、漢字学習(初級) 漢字/かな・語彙読み書き練習(入門)	小瀧雅子 新野佳子	小形真佐子 樋口博	
8	平成28年6月30日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	伝統行事・七夕(入門/初級) 身近なニュースと漢字(初級) かなと語彙(入門)	グループ毎に七夕について学習 プロソディ「ちよつとまって」 ニュース理解・会話、漢字学習(初級) かな・語彙読み書き練習(入門)	井上紀代 樋口博	小瀧雅子 新野佳子	
9	平成28年7月7日(木) 18:30～20:30	2	戸外学習 (増上寺)	9	戸外学習:増上寺 (入門/初級)	事前学習した交通経路等を参照、自力で 目的地に辿り着く。七夕イベント見学、短 冊作成と飾り付け。	宮下しのぶ 小形真佐子	新野佳子 樋口博 小瀧雅子	
10	平成28年7月14日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	動詞の活用①(入門/初級) 身近なニュースと漢字(初級) 漢字/かなと語彙(入門)	動詞グループ分け、活用口慣らし練習 プロソディ「ちよつとまって」 ニュース理解・会話、漢字学習(初級) 漢字/かな・語彙読み書き練習(入門)	新野佳子 松井治子	樋口博 宮下しのぶ	
11	平成28年7月21日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	5	動詞の活用②(入門/初級) 身近なニュースと漢字(初級) かなと語彙(入門)	動詞グループ分け、活用口慣らし、会話練習 プロソディ「ちよつとまって」 ニュース理解・会話、漢字学習(初級) 漢字/かな・語彙読み書き練習(入門)	樋口博 井上紀代	松井治子 新野佳子	
12	平成28年7月28日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	7	動詞の活用③(入門/初級) 身近なニュースと漢字(初級) かなと語彙(入門)	動詞グループ分け、活用口慣らし、会話練習 プロソディ「ちよつとまって」 ニュース理解・会話、漢字学習(初級) 漢字/かな・語彙読み書き練習(入門)	小形真佐子 小瀧雅子	大上幸二 松井治子	

13	平成28年8月4日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	7	夏の行事:お盆(入門/初級) 身近なニュースと漢字(初級) 漢字/かなと語彙(入門)	グループ毎にお盆を通じて日本の文化習慣 ブロンディ「ちよっとまって」 ニュース理解・会話、漢字学習(初級) 漢字/かな・語彙読み書き練習(入門)	大上幸二 宮下しのぶ	井上紀代 松井治子
14	平成28年8月18日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	7	病氣・病院①(入門/初級) 身近なニュースと漢字(初級) かなと語彙(入門)	身体部位・病氣表現(入門)、熱中症(初級) ニュース理解・会話、漢字学習(初級) かな・語彙読み書き練習(入門)	小瀧雅子 新野佳子	小形雅子 井上紀代
15	平成28年8月25日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	8	病氣・病院②(入門/初級) 身近なニュースと漢字(初級) かなと語彙(入門)	診療科・診察(入門)、総合病院とクリニック(初級) ブロンディ「ことばのけいこ」 ニュース理解・会話、漢字学習(初級) かな・語彙読み書き練習(入門)	井上紀代 樋口博	新野佳子 大上幸二
16	平成28年9月1日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	7	病氣・病院③(入門/初級) 身近なニュースと漢字(初級) かなと語彙(入門)	薬の種類・効能(入門)、生活習慣病(初級) ブロンディ「ことばのけいこ」 ニュース理解・会話、漢字学習(初級) かな・語彙読み書き練習(入門)	小瀧雅子 大上幸二	宮下しのぶ 小形真佐子
17	平成28年9月8日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	9	災害①(入門/初級) 身近なニュースと漢字(初級) かなと語彙(入門)	災害の種類・対処(入門)、災害(初級) ブロンディ「ことばのけいこ」 ニュース理解・会話、漢字学習(初級) かな・語彙読み書き練習(入門)	樋口博 大上幸二	宮下しのぶ 新野佳子
18	平成28年9月15日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	災害②(入門/初級) 身近なニュースと漢字(初級) かなと語彙(入門)	災害への備え(入門)、大地震対処(初級) ブロンディ「ことばのけいこ」 ニュース理解・会話、漢字学習(初級) かな・語彙読み書き練習(入門)	松井治子 小形真佐子	大上幸二 樋口博
19	平成28年9月29日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	8	分かり易くまとめて話す・質問する①(入門/初級) 身近なニュースと漢字(初級) 漢字/かなと語彙(入門)	グループ毎に話す・質問する練習 ブロンディ「ことばのけいこ」 ニュース理解・会話、漢字学習(初級) 漢字/かな・語彙読み書き練習(入門)	宮下しのぶ 小瀧雅子	松井治子 井上紀代
20	平成28年10月6日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	10	分かり易くまとめて話す・質問する②(入門/初級) 身近なニュースと漢字(初級) 漢字/かなと語彙(入門)	グループ毎に話す・質問する練習 ブロンディ「ことばのけいこ」 ニュース理解・会話、漢字学習(初級) 漢字/かな・語彙読み書き練習(入門)	井上紀代 新野佳子	樋口博 松井治子
21	平成28年10月13日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	9	分かり易くまとめて話す・質問する③(入門/初級) 身近なニュースと漢字(初級) 漢字/かなと語彙(入門)	グループ毎に話す・質問する練習 ブロンディ「ことばのけいこ」 ニュース理解・会話、漢字学習(初級) 漢字/かな・語彙読み書き練習(入門)	松井治子 樋口博	小瀧雅子 小形真佐子
22	平成28年10月20日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	11	分かり易くまとめて話す・質問する④(入門/初級) 身近なニュースと漢字(初級) 漢字/かなと語彙(入門)	グループ毎に話す・質問する練習 ブロンディ「遠い昔から」 ニュース理解・会話、漢字学習(初級) 漢字/かな・語彙読み書き練習(入門)	新野佳子 宮下しのぶ	井上紀代 大上幸二
23	平成28年10月27日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	9	日本の歳時記:西の市(入門/初級) 身近なニュースと漢字(初級) 漢字/かなと語彙(入門)	グループ毎に「西の市」について事前学習 ブロンディ「遠い昔から」 ニュース理解・会話、漢字学習(初級) 漢字/かな・語彙読み書き練習(入門)	大上幸二 井上紀代	小形真佐子 小瀧雅子
24	平成28年11月10日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	12	戸外学習:西の市(入門/初級)	新宿花園神社にて「西の市」見学・体験	小形真佐子 松井治子	小瀧雅子 宮下しのぶ 新野佳子
25	平成28年11月17日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	10	戸外学習振り返り(入門/初級) 身近なニュースと漢字(初級) 漢字/かなと語彙(入門)	グループ毎に「西の市」見学振り返り ブロンディ「遠い昔から」 ニュース理解・会話、漢字学習(初級) 漢字/かな・語彙読み書き練習(入門)	樋口博 松井治子	小瀧雅子 宮下しのぶ
26	平成28年11月24日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	8	日本の祝日、母国の行事(初級) 読み物学習(入門) 漢字/かなと語彙(入門)	読解、語彙・表現学習、会話練習(初級) 読み物を通して総合学習(入門) 漢字/かな・語彙読み書き練習(入門) ブロンディ「遠い昔から」	松井治子 新野佳子	小形真佐子 樋口博
27	平成28年12月1日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	11	身近なニュースと漢字(初級) 読み物学習(入門) 漢字/かなと語彙(入門)	文化庁日本語教育調査票記入 ニュース理解・会話、漢字学習(初級) 読み物を通して総合学習(入門) 漢字/かな・語彙読み書き練習(入門)	宮下しのぶ 小瀧雅子	井上紀代 大上幸二
28	平成28年12月8日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	9	日本の慣用表現(初級) 読み物学習(入門) 漢字/かなと語彙(入門)	読解、語彙・表現学習、会話練習(初級) 読み物を通して総合学習(入門) 漢字/かな・語彙読み書き練習(入門) ブロンディ「さよならさんかく」	井上紀代 宮下しのぶ	新野佳子 松井治子
29	平成28年12月15日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	10	季節の行事・しきたり(初級) 読み物学習(入門) 漢字/かなと語彙(入門)	読解、語彙・表現学習、会話練習(初級) 読み物を通して総合学習(入門) 漢字/かな・語彙読み書き練習(入門) ブロンディ「さよならさんかく」	大上幸二 井上紀代	宮下しのぶ 小形真佐子
30	平成28年12月22日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	7	季節の行事(入門/初級) 身近なニュースと漢字(初級) 読み物学習(入門) 漢字/かなと語彙(入門)	ニュース理解・会話、漢字学習(初級) 読み物を通して総合学習(入門) 漢字/かな・語彙読み書き練習(入門) ブロンディ「さよならさんかく」	新野佳子 大上幸二	松井治子 井上紀代
31	平成29年1月5日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	年始挨拶(入門/初級) 紹介したい日本事情(初級) 読み物学習(入門) 漢字/かなと語彙(入門)	全員で年始の挨拶・会話(入門/初級) 日本事情読解・語彙学習とディスカッション(初級) 読み物を通して総合学習(入門) 漢字/かな・語彙読み書き練習(入門)	大上幸二 小形真佐子	宮下しのぶ 小瀧雅子
32	平成29年1月12日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	7	日本の昔話(初級) 読み物学習(入門) 漢字/かなと語彙(入門)	日本の代表的な昔話を題材とした学習(初級) 読み物を通して総合学習(入門) 漢字/かな・語彙読み書き練習(入門) ブロンディ「さよならさんかく」	小形真佐子 樋口博	大上幸二 新野佳子
33	平成29年1月19日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	8	身近なニュースと漢字(初級) 読み物学習(入門) 漢字/かなと語彙(入門)	ニュース理解・会話、漢字学習(初級) 読み物を通して総合学習(入門) 漢字/かな・語彙読み書き練習(入門) ブロンディ「さよならさんかく」	松井治子 井上紀代	新野佳子 小瀧雅子
34	平成29年1月26日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	日本のことわざ(初級) 読み物学習(入門) 漢字/かなと語彙(入門)	読解、語彙・表現学習、会話練習(初級) 読み物を通して総合学習(入門) 漢字/かな・語彙読み書き練習(入門) ブロンディ「さよならさんかく」	小瀧雅子 松井治子	大上幸二 新野佳子
35	平成29年2月2日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	節分と立春(入門/初級) 身近なニュースと漢字(初級) 読み物学習(入門) 漢字/かなと語彙(入門)	ニュース理解・会話、漢字学習(初級) 読み物を通して総合学習(入門) 漢字/かな・語彙読み書き練習(入門) ブロンディ「だいすき」	新野佳子 小形真佐子	樋口博 井上紀代

36	平成29年2月9日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願 寺派光明寺	5	身近なニュースと漢字(初級) 読み物学習(入門) 漢字/かなと語彙(入門)	ニュース理解・会話、漢字学習(初級) 読み物を通して総合学習(入門) 漢字/かな・語彙読み書き練習(入門) プロソディ「だいすき」	樋口博 小瀧雅子	井上紀代 小形真佐子
37	平成29年2月16日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願 寺派光明寺	5	身近なニュースと漢字(初級) 容姿等形容詞・表現(入門) 対話(入門/初級)	ニュース理解・会話、漢字学習(初級) 形容詞・表現を学習後家族等の描写(入門) 支援者研修参加者との対話(入門/初級)	小形真佐子 宮下しのぶ	小瀧雅子 大上幸二
38	平成29年2月23日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願 寺派光明寺	5	学習発表会用原稿作成	プロソディ「だいすき」 支援者の手助けを得ながら発表原稿作成 発表に必要な語彙・漢字・表現等学習	大上幸二 樋口博	松井治子 宮下しのぶ
39	平成29年3月2日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願 寺派光明寺	4	学習発表会用原稿作成 発表練習	支援者の手助けを得ながら発表原稿作成 発表に必要な語彙・漢字・表現等学習 スピーチ発表練習	井上紀代 新野佳子	小形真佐子 樋口博
40	平成29年3月9日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願 寺派光明寺	5	学習発表会	講師・支援者の手助けを得ながら発表準備 スピーチ発表及び質疑応答	宮下しのぶ 小瀧雅子	樋口博 松井治子

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第9回 2016年7月7日】

<戸外学習:増上寺>

6:30 光明寺門前集合 全員集合後徒歩で増上寺へ。

6:40 第7回で学習した地図を見ながら、学習者先導で増上寺へ。入門学習者は「右・左に曲がる、まっすぐ行く」等の表現を復習しながら歩く。

6:55 増上寺着 東京タワーをバックに全員で記念撮影。第8回の学習を思い出しながら、各自七夕の短冊を書き、本堂前広場に設置された筐へ。

同日開催の「和紙キャンドルナイト」で、手すき和紙で作られたキャンドルによる天の川を鑑賞。

7:45 増上寺発 東京タワーへ。天の川イルミネーションに飾られた東京タワーを外から鑑賞、全員で歓談、夕食後解散。



○取組事例②

【第36回 2017年2月9日】

<合同学習>

皆が揃うのを待つ間、近況などを話題に会話練習、その後プロソディ「大すき」詩の内容に合わせて動作をしながら練習。第32回「日本の昔話」の回に学習して話題になった歌「海の声」の練習。

<グループ別学習>

・初級: ニュース「ミャンマーで両国の文化交流イベントを開催」読解、語彙・漢字学習、記事にあった表現の学習、内容につき意見交換。

・入門: 読み物「バス(多読ライブラリーレベル1)」を通して総合学習、その後漢字と語彙の読み書き練習。



(2) 目標の達成状況・成果

最終回に参加した学習者へのアンケート結果によると、大半の参加者が「プログラムを受けて日本語が上手になったと思う」、「プログラムを受ける前よりも日本での生活ができるようになった」と答えており、全員が本プログラムに満足し、今後も日本語学習の継続を希望している。今年度は、途中参加の学習者が多く、参加者が固定できなかったが、特に昨年度からの継続者や今年度初めからの参加者は日本社会に対する理解、コミュニケーションも向上しており、「生活者としての外国人」が日本の文化や社会に関する知識を深めながら、日本での生活の基盤を形成する上で必要な行為を日本語を使ってできるようにするという初期の目標は概ね達成できたと考える。

(3) 今後の改善点について

コミュニケーション力のある前年度からの継続参加者、比較的日本語力の高い新たな参加者が多数いた一方、コミュニケーション力のあまりない方の参加が事業開始時だけでなく途中からもあったため、参加者間の日本語力レベル差が大きくなったこと、レベル別グループの人数に偏りが生じたことから、教室運営において難しい面があった。来年度は、特にコミュニケーション力が低い新たな参加者への対応、グループ合同学習の時間、内容につき検討が必要と考える。

今年度は帰国、入院、妊娠や転職などの諸事情により継続して来られなくなった参加者が多数出たこともあり、参加者をなかなか固定できなかった。来年度は事業の周知、参加者募集の方法を検討し、より多くの参加者が常に集まるよう図っていききたいと考える。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称:難民に対する日本語教育への理解を促進するための支援者研修】

目的・目標	日本で暮らす難民とその家族、及び人道的見地から定住を認められている者への日本語支援を通じて、難民への理解を深めてもらい、日本における難民の理解者の輪を広げることを目指す。また、難民への支援の基本的な考え方、方法、教材等について学ぶ。取組1で実施する日本語教室を実践の場所として、支援者が参加する機会を設ける。これにより日本語教室が学習者、支援者双方にとって良い学びと交流の場となること、支援者が難民への日本語教育を知ることによって、自ら支援を实践するきっかけとなることを目指す。								
対象	一般市民(地域のボランティア日本語支援者、難民について知りたい人、国際交流に興味のある人、日本語教師として幅を広げたい人など)								
取組の内容	25年度、26年度に続き、28年度が3回目の支援研修となる。今年度は初回に難民の女性を講師に迎えた。支援に当たり、まずは学習者である難民の方を知る必要があるためである。2回から6回までは基礎研修として、外国語として日本語を客観的にとらえる目を養いつつ、日本語支援をする際に知っておきたい日本語の構造、日本語教育の基礎知識(分かりやすい話し方、音声、文字・表記、日本語教育文法)を学んだ。コミュニケーション重視で相互理解のための地域日本語支援の方法、生活日本語に適した教材や作成のノウハウ、日本の文化・習慣などの支援の方法についても学んだ。7回は「生活者としての外国人」に対する日本語教育の考え方を基に、その言語や言語学習に対する考え方を知識を学ぶ学習とどう違うのか、その目的などを標準的カリキュラム案を活用して学んだ。8回から10回は行動体験型の教室活動の実践例やその支援方法を学習した後、日本語教室において、実際に学習者を支援する実践研修を行った。学習者と1対1での対話支援、日本語教室での学習発表会に向けて、対話によるスピーチの内容引き出しから原稿作成、発表練習まで寄り添った支援を行った。								
実施期間	平成28年12月8日～平成29年3月2日			曜日・時間帯		木曜日(17:30～20:30)			
開催回数	全30時間(1回 3時間 × 10回)			開催場所		公益社団法人国際日本語普及協会			
参加者	総数12人 (支援者研修会参加者12人)			使用した教材・リソース		講師作成オリジナルレクチャー教材 文化庁「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案、教材例集			
出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	日本国(12人)								
カリキュラム案活用	2月7日(木)基礎7:「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案を知ろう」というテーマで、①概要、背景、目的、目標、言語学習や教室活動(行動体験中心の活動)について学んだ。(ガイドブックP.1～P.5)②「生活上の行為の事例」に対応する30単位の学習項目について概観したあと、具体例を取り出し学習した。(「I. 健康・安全に暮らす」から、「災害に備え対応する」、「健康を保つ」Ⅲ消費活動を行うⅣ. 目的地に移動する)(ガイドブックP. 54.55) 2月16日(木)実践1:「行動・体験中心の教室活動」—ショウアンドテルの手法を応用・発展させ、対話による支援の方法を学んだ。また支援練習として、写真を見ながら質問したり、感想やコメントを述べあったりしながら会話をつなげていく実践練習をした。(ガイドブックP.37 P.50)								

養成・研修の実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師名	補助者名
1	平成28年12月8日(木) 17:30～20:30	3	(公社)国際日本語普及協会	11	基礎1 日本語支援の第1歩	難民当事者の生の声を聞き、難民の状況や日本語支援の必要性について学ぶ。難民当事者(講師)の話①難民として生きる②日本語のここが難しい	カディザ・ベコム	小瀧雅子
2	平成28年12月15日(木) 17:30～20:30	3	(公社)国際日本語普及協会	8	基礎2 わかりやすく話そう—相手に伝える話し方	「わかりやすい日本語/やさしい日本語」がどのようなものかを知ることにより、外国人に伝わりやすい話し方を学ぶ。わかりやすい話し方ミニワークショップを行った。	新野佳子	なし
3	平成29年1月12日(木) 17:30～20:30	3	(公社)国際日本語普及協会	10	基礎3 日本語ってどんなことば—音・文字	普段何気なく使っている日本語の音や文字について見直してみることで、日本語学習者が何に躓いていくのかを理解する。	宮下しのぶ	なし
4	平成29年1月19日(木) 17:30～20:30	3	(公社)国際日本語普及協会	9	基礎4 日本語ってどんなことば—形(文法)①	日本語教育における文法、特に名詞文・形容詞文について理解を深め、支援の方法を考える。	小形真佐子	なし
5	平成29年1月26日(木) 17:30～20:30	3	(公社)国際日本語普及協会	9	基礎5 日本語ってどんなことば—形(文法)②	日本語教育における文法、特に動詞文について理解を深め、支援の方法を考える。	井上紀代	なし
6	平成29年2月2日(木) 17:30～20:30	3	(公社)国際日本語普及協会	9	基礎6 日本語ってどんなことば—形(文法)③	生活者としての日本語教育での文法の扱い方、そして学習者の御用はどこから生じるかなど、日本語の特徴と絡めて紹介し、検討した。	松井治子	なし
7	平成29年2月9日(木) 17:30～20:30	3	(公社)国際日本語普及協会	5	基礎7 「体験行動型」の教室活動①	「生活者としての外国人に対する日本語教育のカリキュラム案」の概要を知り、幾つか教材を紹介することによって体験行動型の教室活動への理解を	新野佳子	なし
8	平成29年2月16日(木) 17:30～20:30	3	(公社)国際日本語普及協会	4	実践1 「体験行動型」の教室活動②	実践研修第1回目として、学習者と対話をすることによって日本語支援における教室活動への理解を深める。活動の体験に先立ち、対話による支援で必要なこと、注意すべき点等を考え	樋口博	なし
9	平成29年2月23日(木) 17:30～20:30	3	(公社)国際日本語普及協会	5	実践2 「体験行動型」の教室活動③	実践研修第2回目として、学習者のスピーチ原稿の支援を通じ、教室活動への理解を深める。活動の体験に先立ち、作文の支援のポイントを考え、支援方法を学ぶ。	小瀧雅子	なし
10	平成28年3月2日(木) 17:30～20:30	3	(公社)国際日本語普及協会	6	実践3 「体験行動型」の教室活動④	これまでの基礎、実践研修の総まとめとして、ほぼマンツーマンで発表会に向けてのスピーチ原稿作成、発表練習などの支援活動を体験した。	大上幸二	なし

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第1回 28年12月8日】

1. 挨拶

AJALTの難民教育との関りを含め、協会理事長より挨拶の言葉を述べた。

2. 自己紹介

受講者が一人ずつ本講座の受講動機や支援歴などについて話した。

3. 本クラスの趣旨

クラスの趣旨、内容、今後のスケジュールについて補助講師より説明をした。

4. 難民当事者(講師)の話

講師として話してもらったのは、10年前に日本語が全く分からない状態で難民の家族として呼び寄せられ、RHQ支援センター、日本語学校での学習を経てUNCHRの奨学生として大学に進み、現在は子育てをしながら仕事を続けるとともに地域に住む同胞の女性たちのために自助組織を立ち上げようとしている女性である。

以下のふたつのテーマについてお話いただき、受講者との質疑応答を行った。

① 難民として生きる～これまでの人生を振り返る

② 日本語のここが難しい～入国当初の日常生活、学生としてのアカデミックな日本語、職場の一員として要求される仕事の日本語、地域住民・母親として必要な日本語等、ライフステージの各場面で必要とされる日本語能力について



○取組事例②

【第8回 29年2月16日】

I. 本日から実践研修に入るのに先立ち日本語教室の説明を行った。

① 概要、目的、学習者や教室活動について

「生活日本語」の習得を中心としながら、さまざまなコミュニケーション活動、プロソディや動詞活用形の口慣らし練習、文字学習の他文型・表現・語彙等の言語学習も適宜取り入れた内容であることを理解した。

② 教室活動の具体例紹介

日本社会に関する情報を得るために身近な話題のニュースを素材とした活動、コミュニケーション練習としての活動、その中で文字・表現・文法等の学習を行う活動を紹介した。

II. 対話型支援について

対話型支援教材の教材例などを紹介しながら、本日実践する学習者との対話活動の進め方、留意点等について考えてみた。

III. 対話活動の準備

① 「私の家族」、「私の好きな○○」という話題で講師の準備した写真を見ながら質問したり、感想やコメントを述べあったりしながら会話をつなげていく実践練習をした。

② 続いて参加者が準備した素材を見せ合い、どんなことを話すか話題が広がりやすいかなど考えてみた。

IV. 日本語教室に移動して実践研修

① 教室の雰囲気に慣れるため、活動を見学。

② 全員集まってお互いに簡単な自己紹介。

③ その後日本人参加者と外国人参加者がペアになって対話活動を行った。



(2) 目標の達成状況・成果

終了時にアンケートを実施し、7名から回答を得た。全員が「生活者としての外国人」に対する日本語教育への理解が深まり、今後「生活者としての外国人」に対する日本語教育に関わってみたい人が殆どだった。「難民の方が一生懸命生きる姿に、何が出来るかを今まで以上に考えるきっかけになった。」というコメントが寄せられ、難民の方の生の声を聞くことによって、難民支援に対する理解が深まったことが伺われる。また、「教材紹介も豊富で役にたった。基礎研修と実践研修のバランスが良かった。文法など基礎的な知識を学べたことが良かった。今後の活動に生かせるヒントや考え方がたくさんあった。」というコメントからは、今回の研修で「生活者としての外国人」への支援方法が掴めたと考える。「時間の許す限り支援へ参加したい。一人でも多くの生活者としての外国人が住みやすい日本になる手助けがしたい。」などのコメントも寄せられた。実際に自ら支援を始める動機づけになったと考えられる。

アンケート結果

- ・今回参加して、「生活者としての外国人」に対する日本語教育への理解が深まったと思うか。

回答：深まったと思う 7人/7人中

- ・今回参加して、「生活者としての外国人」のための日本語教育に関わってみたいと思いませんか。

回答：関わってみたいと思う 6人/7人中

できれば関わってみたいと思う 1人/7人中

アンケートに寄せられたコメントより

・全く知識のない状態での出席でしたが、講師の先生方の授業は分かりやすく、教材等の紹介も豊富で、今後の活動に大変役に立つと感じました。どうもありがとうございました。教室での実習も座学とは違った経験ができ、とてもよかったです。・今回参加させていただき、日本語を外国の方にゼロから教えることの難しさを知り、そして日本語を改めて見つめなおし、おそらくまだ実践するにはほど遠いとは思いますが、道筋のようなものが見えた気がします。とても楽しく学ばせて頂きました。またこのような機会がありましたら、お声かけください。・貴団体の研修を受けて、ボランティアの皆さんが文法を「わかっている」「知っている」ということは、とても役に立つと思いました。「学習者を知る」→「文法を知る」→「教室活動を体験する」という一連の流れになっていて、学んだことを次回に生かしました。ありがとうございました。・非常にためになった。それと共に楽しかった。また機会があったら日本語の勉強を続けたいと思います。

(3) 今後の改善点について

以前の支援者研修の実践編では、支援内容が多かったためか、学習者から支援者に教えてもらうのではなく、いつもの先生に教えてほしいという不満が寄せられたことがあった。今回はその反省点を踏まえ、支援者が支援するのは、作文とスピーチの指導に絞った。このことで支援の内容が明確になり、良い支援ができた。また1対1の支援であったため支援者と学習者の結びつきが強くなり、学習者は支援を楽しみにし、不満が出ることもなかった。今後も日本語教室での実践研修ではよりよい支援ができるよう、内容を絞り、支援の方法も具体的に計画していく。支援者研修に参加する支援者と学習者との数のバランスが難しく、学習者が少ないときは、2対1で支援するケースもあった。逆に学習者が多いと、1対1での支援ができなくなる。今後もロコミや新しくボランティア教室を立ち上げたところなどへの広報活動に力をいれ、支援者研修への参加者を増やしていきたい。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

難民問題が世界的な課題となる今日、日本にとっても難民を今後どう受け入れるかは避けて通れない課題である。難民が日本社会で自立し安全で健康的な暮らしを成立していくために、日本語支援がどうあるべきかという問題は、いまだ社会で十分に議論され共有されているとはいえない。AJALTの日本語講師はインドシナ難民受け入れの時代から今まで約35年にわたって難民事業本部の運営の下、難民への日本語教育を実践してきた。難民への日本語教育は今日、地域で求められている「生活者としての外国人」のための日本語教育そのものといえるが、加えて実践にあたっては難民という特殊性に対する理解も必要である。また、多くの地域の教室がそうであるように、多文化、多言語、レベル差などに対応した教室運営が求められる。本事業では「難民への日本語教育・支援」について、その基本的な考え方、方法、教材等について、支援者の理解の輪を広げることを第一の目的とするとともに、学習機会と場を切望する多くの難民とその家族、人道的配慮により在留を認められた人々に向けた日本語教室を昨年に引き続き実施する。この日本語教室をモデル教室として運営し、実践の場に支援者が参加する機会を提供する。モデル教室が学習者、支援者双方にとって良い学びと交流の場となり、結果として①学習者にとっては日本語力の向上、社会参加の促進、②支援者にとっては難民への日本語教育への理解促進、自らの実践に向けた動機づけとなることを目指す。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

取組1「日本語学習支援事業」においては、参加者からのアンケート結果から「生活者としての外国人」が日本の文化や社会に関する知識を深めながら、日本での生活の基盤を形成する上で必要な行為を日本語を使ってできるようにするという初期の目標は概ね達成できたと考える。取組2「支援者研修事業」においては、難民への理解が深まり、日本における難民の理解者の輪を広げることに貢献できたと考える。また、参加者からのアンケート結果から、今回の研修が、「コミュニケーション重視で相互理解のための地域日本語支援の方法、生活日本語に適した教材や作成のノウハウを学び、自ら支援を始める動機付けとなる」という目標を概ね達成できたと考える。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

「生活日本語」といってもピンとこない人もいる。支援者研修では、カリキュラム案から「生活上の行為」に挙げられた項目を見ていくことで、「生活日本語」の具体的なイメージを持つのに役立った。ただ、どの程度のこと言えれば(できれば)達成できたと考えるのか、難しさは個々の状況にもより、判断基準が良く分からないということがあった。また、これだけでは教材作成のイメージには結びつかない。教材例集は病気や災害の教材を作成するのに参考になった。また、ガイドブックP.37の6.活動方法の例の具体的内容を参考に、タスク(実体験、インタビュー、ロールプレイ)、エクササイズ(ショーアンドテル、スキミング、スキヤニング)を行った。学習者間においても発話が活発になったと考える。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果等

事業実施に当たり、本年度も港区役所および港区国際交流協会から協力を得ることができ、両事業の広報や実施内容検討において助言、協力を仰いだ。公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部からは、難民コミュニティや関係者への広報等において協力を得た。弊会に隣接する浄土真宗本願寺派光明寺には、本年度も「日本語学習支援事業」の会場提供において協力をいただき、住職からは地域住民のコミュニケーション促進活動を推進する立場からも助言、協力をいただいた。更に本年度は当事者による支援団体であるJMCCミャンマー・カルチャーセンター等にも呼び掛け、支援者研修に多数の参加者を得た。港区を拠点として、難民に焦点を当てた本事業では、上記の団体、個人の他今後多数の関係者との連携を深めつつ引き続き推進していきたいと考える。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

取組1「日本語学習支援事業」では、公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部を通じて難民コミュニティに広報活動を行い、難民が多く集まる飲食店等、継続参加者からの口コミによる周知も図った。更に港区役所と港区国際交流協会の協力を得て地域在住の定住外国人への広報活動を行った。取組2「支援者研修事業」では、港区役所および港区国際交流協会の協力を得て地域の支援団体、個人への周知・広報活動を行った。更に難民支援関係団体等を通じて支援者への周知を図った。本事業成果については、上記団体を通じた関係者への発信を今後も継続していくとともに、ウェブサイトや弊会が関わる各種催し等の機会を通じても引き続き行っていく。

(6) 改善点、今後の課題について

本事業の実施を通じて、港区及び港区国際交流協会との協力関係が年々深められてきた。公益財団法人アジア福祉教育財団や難民支援関連団体との横の繋がりも強化されてきていると考える。今後も本事業を更に継続発展させていくために「日本語学習支援事業」を地域支援者等に開かれた場所とし、より多くの関係者との連携を図っていきたくと考える。「日本語学習支援事業」、「支援者研修事業」の内容や周知、運営方法については、まだ改善の余地があるが、今後も更なる充実を図りつつ、より多くの参加者と成果が共有できるよう努めていきたいと考える。

(7) その他参考資料

- 参考資料1 第1、2、3回運営委員会議事録
- 参考資料2 日本語学習支援事業 授業報告
- 参考資料3 日本語学習支援事業 出席簿 (※個人情報の為、HPでは非公開)
- 参考資料4 日本語学習支援事業 ご案内(日本語、英語、ミャンマー語版)
- 参考資料5 日本語学習支援事業 アンケート
- 参考資料6 支援者研修事業 報告書
- 参考資料7 支援者研修事業 出席簿
- 参考資料8 支援者研修事業 ご案内
- 参考資料9 支援者研修事業 アンケート